

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3894000045
法人名	有限会社 別当
事業所名	グループホームわたしの青空
所在地	愛媛県南宇和郡愛南町城辺乙696番10
自己評価作成日	平成 29 年 1 月 31 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 29 年 3 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の個性や生活のペースを尊重したケアを心掛けることによって、利用者の笑顔が暮らしの中にあふれるようになり、さらにそのことが、利用者家族の生活の中に笑顔の場面を増やしていくことにつながる。そういった笑顔の連鎖の出発点となれるように、日々努力を重ねている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、幹線道路から坂を少し上がり山の緑が見渡せる自然豊かな環境の中にあり、日当たりがよく自然を感じながら過ごすことができる。代表者が毎日出勤し管理者や職員と共に利用者とかかわることで、事業所内の連携が深まり効率的な業務の遂行につながっている。代表者と管理者は職員からの信頼が厚く、職員は毎日いろいろな発見を楽しみながら、利用者の尊厳を大切に介護する人ではなく生活のパートナーとして、利用者一人ひとりに合わせたペースで支援に努めている。今後、職員全員が看取りの重要性を認識し、利用者が最期まで満足してもらえるような支援に取り組んでいきたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームわたしの青空

(ユニット名) 東通り

記入者(管理者)
氏名 荒谷 留里

評価完了日 平成 29 年 1 月 31 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) リビングに理念を掲示し、全職員が折々にこれを確認しながら、日々の実践に活かすように努めている。	
			(外部評価) 開設時に代表者が作成した理念を大切に継承している。利用者の笑顔が家族の安心につながるよう、利用者一人ひとりを大切に職員全員で利用者情報の共有を図りながらケアに取り組んでいる。代表者は職員全員が一致団結し業務に励むことが重要であると考え、ミーティングや職員会議等での振り返りをまめに行い意識向上につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の自主防災組織との学習会（介護・防災関係）を継続していくことで、辛うじて地域との交流が維持できている状況である。	
			(外部評価) 以前は小学生との交流があったが、現在は教員の移動の関係からとどまっている。地域の自主防災組織とは合同学習会を行うなど交流を大切にしている。時折、地域住民が野菜を差し入れてくれたりして気にかけてくれる。これからも地域とのつながりを大切にし、日常的に交流ができるよう努力する方針である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 入居の“順番待ち”の間のご家族を、少しでも支援することになれば…という思いから、事業所が制作した小冊子をプレゼントさせていただいている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 事業所の考え方や努力の様子を積極的に開示することに努 めていることもあり、利用者家族の温かい理解・協力を得 ることができている。	
			(外部評価) 新たなメンバーの参加はないが、退所した家族が継続して 会議に参加してくれている。会議では事業所の現状報告や 意見交換がされ、時には認知症の勉強会や薬剤師を招いて の勉強会を開催するなど、内容に変化をと工夫している。 昨年夏には会議メンバーの協力でそうめん流しを行い、利 用者が大満足を得ることができた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議への毎回の出席をとおして、事業所の状況 をよく理解していただいている。	
			(外部評価) 町職員は運営推進会議に参加し、事業所の実情を把握して おり、介護保険の更新や確認事項がある時は、必要に応じ 情報提供している。日頃より協力関係を築き連携が取りや すくなるよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準にお ける禁止の対象となる具体的な行為」を正 しく理解しており、玄関の施錠を含めて身 体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 「身体拘束などの排除の理念及び方針」を定めており、職 員研修等を通じて身体拘束についての共通理解の徹底に努 めている。	
			(外部評価) 職員は身体拘束の弊害について理解し、拘束をしないケア に努めている。職員会議の後にも研修テーマに取り上げ勉 強会を重ねることで、意識向上につなげている。言葉の拘 束についても「ちょっと待って」は禁句と意識し、利用者 にきちんと対応できるよう職員は留意している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員研修をとおして、全職員の高齢者虐待防止についての意識の高揚に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する制度の理解と活用について全職員が理解できるところまでの学習機会は確保できていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分に時間をとって説明し、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、納得をしていただけるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議の際や来訪時に、くつろいだ会話の中からさりげなく意見や要望を聞き出すように努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議や面会時に意見や要望を聞くよう努めている。また遠方の家族が多いため小まめに電話をかけ情報を得るようにしている。利用者の状態の不安や心配の声が多く、職員は詳細に伝えるようにしている。利用者からは風呂やトイレ時、夜勤帯の1対1の場面で普段聞けないことを聞くことがある。事業所まで上る道に街灯がなく、地域住民の好意で街灯が設置され安心につながっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月の定例職員会議時に、意見や提案を聞いており、職員の考えを運営に反映させるよう努めている。	
			(外部評価) 毎月の職員会議で意見や提案を聞いている。日頃のケアにおいても気づいたことは職員同士で会話ができている。代表者は自ら早く出勤したり、管理者も穏やかに職員に接するなど職員からの信頼は厚い。希望休やシフトの交代など働きやすい環境づくりを行い、仕事に集中できるよう配慮している。管理者は終業時間にはスタッフルームに在中し職員の顔表情などを確認したり、話せる機会をもつよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務考課制度を導入し、評価基準を明確にして職員の意欲向上を図っている。また希望する職員には、事業所負担で産業カウンセラーのカウンセリングが受けられる制度もある。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 定例職員会議や必要に応じて開催する職員研修が職員育成の主な機会となっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 以前は同業者との勉強会や相互訪問等に積極的に取り組んでいたが、近年はそこまで手が回らなくなっている。再チャレンジを検討していきたい。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に訪問面接し、要望等に耳を傾け、本人の安心を確保するように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に事業所を見学していただき、心配事や要望等を安心して話していただける関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) まずは生活を注意深く見極め、本人の「できることは何か」「やりたいと思っていることは何か」を見つけ出していくことに努め、どんな対応が必要かを考えている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 事業所の理念の中にこのことを掲げ、職員と利用者とを「介護する側・される側」としてではなく、「生活のパートナー」であるとする捉え方を全職員に徹底させるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月家族に届ける「通信」の担当者コメント欄を活用するなどして、家族と共に本人を支えていこうとする事業所の思いが伝わるように努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会等に来られた方に対して、また次に来やすい印象を抱いていただけるように、温かい対応を心がけている。 (外部評価) 元同僚や知人の面会があり、職員は温かい対応を心がけている。家族が行きつけの美容室に連れ出したり、以前は職員がお墓参りに同行したこともある。だんだんと馴染みの関係が希薄になってきているが、できるだけ途切れないよう支援していきたいと思っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係についての情報を職員間で共有し、すべての利用者が互いに尊重し合いながら、楽しく穏やかに生活できるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用終了後も、利用者家族が運営推進会議に参加して下さったり、気軽に立ち寄って下さったりしている。 必要な場合は、適切な支援を行うよう努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 思いを伝えられない利用者のために、日々の生活の中でみられるさりげない言葉や行動から本人の意向をくみ取ることができるよう努力している。 (外部評価) 日常の関わりを大切に、利用者の思いを聞き取るよう努めている。職員には「傾聴」の研修を取り入れ意識向上に努めている。意思疎通の難しい利用者が何気なく発した言葉「ありがとう」に報われた気持ちになったと代表者は語っている。利用者の思いの表出がしやすいよう職員はゆっくりとした態度で誘導するなど努力している。利用者の思いは介護記録に残し、職員全員で共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から得た情報を職員間で共有し、介護計画に反映させることができるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日、介護記録や健康状態の記録をつけて職員間で情報を共有し、細かな変化も見落とさないように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 折に触れて家族の意向を確認し、それと利用者本人の現状を踏まえて全職員でカンファレンスを行い、意見を述べ合って介護計画の作成に反映させている。 (外部評価) 家族面会時や電話で意向を確認し、「少しでも長生きしてほしい」など家族の要望を取り入れながら、担当者を中心に職員で話し合っって介護計画を作成している。代表者が考案した様式は、計画と実施記録などすべてが一目でわかり、効率的なものとなっている。定期的に評価を行い、必要に応じ計画を立て直すなど利用者本位の介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護日誌や介護記録に毎日の様子を記入し、職員間で情報を共有している。カンファレンスの際には、こういったものを客観的に見つめ直し、介護計画の見直しに役立っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) そこまでの取り組みはない。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 毎年、秋祭りには地域の唐獅子保存会が獅子舞を披露してくださるなど、折々に協力者の支援がある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 受診は本人及び家族の意向を最大限尊重しており、かかり つけ医への連絡はこまめに行っている。	
			(外部評価) ほとんどの利用者が協力医を主治医としている。毎月1回 の往診と24時間医療体制が整っており、利用者は安心して 過ごすことができている。総合病院や専門医への受診は 家族協力のもと行われ、その都度事業所と家族で情報共有 を図り健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 気づいたことは職場内の看護師資格を有する介護職員に伝 えて相談するようにしており、常に適切な対応がとれるよ うに心がけている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時の病院関係者との情報伝達が円滑に進むように、 普段から病院の医師・看護師に対して報告・連絡・相談を こまめに行うことを心がけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 主治医から家族に十分な説明をしていただいた上で、主治 医・家族・事業所が合意文書を作成し、それに基づいた取 り組みを行っている。	
			(外部評価) 看取り指針を定め、現在まで多数の看取りを行っている。 最期まで口から好きな物を食べさせてあげたいという家族 の要望に応え、家族と協力しながら支援し、穏やかに最期 を迎えた利用者もいる。これからも利用者や家族の意向を 確認しながら、主治医の協力のもと終末期ケアに取り組ん でいきたいと考えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的な訓練はしていないが、職員研修で対応を学習している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 日々のケアに追われて、災害対策が不十分に終わってしまっているというのが正直なところである。初心に立ち返って、訓練実施に真摯に取り組みたい。 (外部評価) 十分な避難訓練が行われていないのが現状であるが、地域の自主防災組織との協力体制は築かれている。備蓄に関しては一週間分の水と食料品を備えている。代表者は現状を踏まえ危機感を持っており、地元の自主防災組織と連携し避難訓練実施に取り組んでいく方針である。	日頃より地域住民との交流を図り、いざという時の備えができるよう、消防署の協力を得て避難訓練や避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っていくなど、今後の取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の利用者あった話し方、なじみの言葉・敬語を使い分けながら、利用者の尊厳を傷つけない言葉かけや対応を心がけている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの生活のペースに合わせ、落ち着いた生活ができるよう努めている。入浴や排泄の場面では羞恥心の配慮に心がけている。会話や名前の呼び方にも注意を払い、利用者が馴染んで落ち着けるような呼び方を尊重している。代表者と管理者をはじめ、職員は利用者の尊厳を最大限大切に支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が自分の思いや希望を素直に表現できるような雰囲気づくりを第一に考えて取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の意思を尊重し、できる限り自由に、そして自分に合ったペースで過ごしていただけるように配慮している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 男女共に、希望に応じて訪問美容師によるカット・パーマを利用していただき、快適に過ごしていただいている。希望される女性利用者には、職員が化粧やマニキュアの支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 可能な限り、利用者に材料切り・配膳・後片付けを職員と一緒に行っていただくようにしている。	
			(外部評価) 食材提供会社と契約し栄養士の作成した献立となっているが、利用者の好みを取り入れながら臨機応変に対応している。利用者の状態に応じ形態を変え、安全に美味しく食べられるよう配慮している。利用者が落ち着いて食事ができるよう席を一定にし、職員と一緒に食事を摂りながら注意の必要な利用者には声かけをし、見守っている。利用者には豆の皮むきや片付けなどできることを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の食事量・水分摂取量を利用者ごとに確認している。食事形態は利用者、あるいはその日の体調によって異なる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後は口腔ケアを実施している。うがいができない利用者には、ガーゼやスポンジブラシを使用し口腔清拭を実施している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者の排泄リズムに合わせてトイレ誘導を行うように努めており、可能な限りトイレで排泄するようにしている。	
			(外部評価) 各ユニットにトイレが3か所あり、うち1か所は浴室に設置されており、利用者は使用しやすいトイレを選んで使用している。職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけにより誘導し排泄自立を念頭に支援している。日中は布パンツとパットで過ごし、夜間のみ紙パンツに変更することで利用者の安心を保てるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事量・水分量をチェックしながら、食物繊維や乳製品の摂取を心がけている。また、毎朝体操をして身体を動かすようにしており、どうしても便通のないときは医師に相談して薬を服用していただいている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴できるようになっており、利用者一人一人の状況に応じた入浴支援を心がけている。	
			(外部評価) 毎日入浴できるよう支援しており、利用者全員が入浴を楽しめるよう努めている。同性介助など利用者一人ひとりの状況に合わせて、ゆっくり落ち着いて入浴できるようにしている。時期的に肌の乾燥が目立つ利用者には、入浴後ボディクリームを塗布し保湿を保つなどの配慮もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ゆったりと、自由に自分の時間を過ごしていただけるように心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書は利用者別のロッカーに保管し、内容をいつでも確認することができるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の意欲の程度に配慮しながら、支援することを心がけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外へ出ることを好まれない利用者がだんだんと増えてきた…という実態があり、以前に比べると外出支援の頻度は低い。事業所としては、大いに力を入れたいことのひとつであるので、さらに工夫と努力をしていきたい。 (外部評価) 積極的に外出を希望する利用者が少なくなってきたが、天気の良い日は庭先で日向ぼっこしたりする機会を設けている。家族の協力を得てドライブに連れ出してもらうこともある。年間行事計画を立て、花見などの外出は行っているが、継続するまでは至っていないため、今後はさらに工夫と努力を重ね外出支援に努めたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者家族と相談の上で対応している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自由にいただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 各居室・リビング・脱衣室に温度計を取り付け、こまやかな室温調節を心がけている。 居室の入口ドアには、利用者が職員と一緒に作った折り紙の飾りのついたのれんを掛けている。	
			(外部評価) リビングは広く、吹き抜け部分があり明るい日差しが差し込んでくる。温度確認表をチェックしながら細やかに室温調節することで利用者の健康管理につなげている。臭気がないよう換気はまめにしており、玄関を入るとやわらかい良い匂いが心地よく感じられる。掃除もきれいに行き届き整理整頓もされており、利用者が転倒等をしないよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにソファを置いており畳のスペースもある。一人一人が思い思いに過ごすことができ、また気の合った者同士で語り合うこともできるように配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた物を持ち込んでいただき、安心できる空間をつくるように努めている。	
			(外部評価) エアコンやベッド、クローゼットが備え付けとなっている。ベッドは簡易と介護用があり、利用者の状態に合わせ使用できるよう配慮されている。転落防止のため和式布団を使用している利用者も多く、タンスやテレビなど使い慣れた物を持ち込んだり、仏壇に遺影などを置き手を合わす利用者もいる。部屋には温度計を置き適切な温度を保ち、また担当職員が居室の片付けを協力するなど、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 「できること」「わかること」の領域がせばまらないように、事業所としてできる工夫や配慮を常に模索している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3894000045
法人名	有限会社 別当
事業所名	グループホームわたしの青空
所在地	愛媛県南宇和郡愛南町城辺乙696番10
自己評価作成日	平成29年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成29年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の個性や生活のペースを尊重したケアを心掛けることによって、利用者の笑顔が暮らしの中にあふれるようになり、さらにそのことが、利用者家族の生活の中に笑顔の場を増やしていくことにつながる。そういった笑顔の連鎖の出発点となれるように、日々努力を重ねている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、幹線道路から坂を少し上がり山の緑が見渡せる自然豊かな環境の中にあり、日当たりがよく自然を感じながら過ごすことができる。代表者が毎日出勤し管理者や職員と共に利用者とかかわることで、事業所内の連携が深まり効率的な業務の遂行につながっている。代表者と管理者は職員からの信頼が厚く、職員は毎日いろいろな発見を楽しみながら、利用者の尊厳を大切に介護する人ではなく生活のパートナーとして、利用者一人ひとりに合わせたペースで支援に努めている。今後、職員全員が看取りの重要性を認識し、利用者が最期まで満足してもらえるような支援に取り組んでいきたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームわたしの青空

(ユニット名) 西通り

記入者(管理者)

氏名 荒谷 留里

評価完了日 平成 29 年 1 月 31 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) リビングに理念を掲示し、全職員が折々にこれを確認しながら、日々の実践に活かすように努めている。</p> <p>(外部評価) 開設時に代表者が作成した理念を大切に継承している。利用者の笑顔が家族の安心につながるよう、利用者一人ひとりを大切に職員全員で利用者情報の共有を図りながらケアに取り組んでいる。代表者は職員全員が一致団結し業務に励むことが重要であると考え、ミーティングや職員会議等での振り返りをまめに行い意識向上につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の自主防災組織との学習会（介護・防災関係）を継続していくことで、辛うじて地域との交流が維持できている状況である。</p> <p>(外部評価) 以前は小学生との交流があったが、現在は教員の移動の関係からとどまっている。地域の自主防災組織とは合同学習会を行うなど交流を大切にしている。時折、地域住民が野菜を差し入れてくれたりして気にかけてくれる。これからも地域とのつながりを大切に、日常的に交流ができるよう努力する方針である。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 入居の“順番待ち”の間のご家族を、少しでも支援することになれば…という思いから、事業所が制作した小冊子をプレゼントさせていただいている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 事業所の考え方や努力の様子を積極的に開示することに努めていることもあり、利用者家族の温かい理解・協力を得ることができている。	
			(外部評価) 新たなメンバーの参加はないが、退所した家族が継続して会議に参加してくれている。会議では事業所の現状報告や意見交換がされ、時には認知症の勉強会や薬剤師を招いての勉強会を開催するなど、内容に変化をと工夫している。昨年夏には会議メンバーの協力でそうめん流しを行い、利用者が大満足を得ることができた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議への毎回の出席をとおして、事業所の状況をよく理解していただいている。	
			(外部評価) 町職員は運営推進会議に参加し、事業所の実情を把握しており、介護保険の更新や確認事項がある時は、必要に応じ情報提供している。日頃より協力関係を築き連携が取りやすくなるよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 「身体拘束などの排除の理念及び方針」を定めており、職員研修等を通じて身体拘束についての共通理解の徹底に努めている。	
			(外部評価) 職員は身体拘束の弊害について理解し、拘束をしないケアに努めている。職員会議の後にも研修テーマに取り上げ勉強会を重ねることで、意識向上につなげている。言葉の拘束についても「ちょっと待って」は禁句と意識し、利用者నికిちんと対応できるよう職員は留意している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員研修をとおして、全職員の高齢者虐待防止についての意識の高揚に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する制度の理解と活用について全職員が理解できるところまでの学習機会は確保できていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分に時間をとって説明し、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、納得をしていただけるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議の際や来訪時に、くつろいだ会話の中からさりげなく意見や要望を聞き出すように努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議や面会時に意見や要望を聞くよう努めている。また遠方の家族が多いため小まめに電話をかけ情報を得るようにしている。利用者の状態の不安や心配の声が多く、職員は詳細に伝えるようにしている。利用者からは風呂やトイレ時、夜勤帯の1対1の場面で普段聞けないことを聞くことがある。事業所まで上る道に街灯がなく、地域住民の好意で街灯が設置され安心につながっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月の定例職員会議時に、意見や提案を聞いており、職員の考えを運営に反映させるよう努めている。	
			(外部評価) 毎月の職員会議で意見や提案を聞いている。日頃のケアにおいても気づいたことは職員同士で会話ができている。代表者は自ら早く出勤したり、管理者も穏やかに職員に接するなど職員からの信頼は厚い。希望休やシフトの交代など働きやすい環境づくりを行い、仕事に集中できるよう配慮している。管理者は終業時間にはスタッフルームに在中し職員の顔表情などを確認したり、話せる機会をもつよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務考課制度を導入し、評価基準を明確にして職員の意欲向上を図っている。また希望する職員には、事業所負担で産業カウンセラーのカウンセリングが受けられる制度もある。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 定例職員会議や必要に応じて開催する職員研修が職員育成の主な機会となっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 以前は同業者との勉強会や相互訪問等に積極的に取り組んでいたが、近年はそこまで手が回らなくなっている。再チャレンジを検討していきたい。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に訪問面接し、要望等に耳を傾け、本人の安心を確保するように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に事業所を見学していただき、心配事や要望等を安心して話していただける関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) まずは生活を注意深く見極め、本人の「できることは何か」「やりたいと思っていることは何か」を見つけ出していくことに努め、どんな対応が必要かを考えている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 事業所の理念の中にこのことを掲げ、職員と利用者とを「介護する側・される側」としてではなく、「生活のパートナー」であるとする捉え方を全職員に徹底させるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月家族に届ける「通信」の担当者コメント欄を活用するなどして、家族と共に本人を支えていこうとする事業所の思いが伝わるように努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会等に来られた方に対して、また次に来やすい印象を抱いていただけるように、温かい対応を心がけている。 (外部評価) 元同僚や知人の面会があり、職員は温かい対応を心がけている。家族が行きつけの美容室に連れ出したり、以前は職員がお墓参りに同行したこともある。だんだんと馴染みの関係が希薄になってきているが、できるだけ途切れないよう支援していきたいと思っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係についての情報を職員間で共有し、すべての利用者が互いに尊重し合いながら、楽しく穏やかに生活できるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用終了後も、利用者家族が運営推進会議に参加して下さったり、気軽に立ち寄って下さったりしている。 必要な場合は、適切な支援を行うよう努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 思いを伝えられない利用者のために、日々の生活の中でみられるさりげない言葉や行動から本人の意向をくみ取ることができるよう努力している。 (外部評価) 日常の関わりを大切に、利用者の思いを聞き取るよう努めている。職員には「傾聴」の研修を取り入れ意識向上に努めている。意思疎通の難しい利用者が何気なく発した言葉「ありがとう」に報われた気持ちになったと代表者は語っている。利用者の思いの表出がしやすいよう職員はゆっくりとした態度で誘導するなど努力している。利用者の思いは介護記録に残し、職員全員で共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から得た情報を職員間で共有し、介護計画に反映させることができるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日、介護記録や健康状態の記録をつけて職員間で情報を共有し、細かな変化も見落とさないように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 折に触れて家族の意向を確認し、それと利用者本人の現状を踏まえて全職員でカンファレンスを行い、意見を述べ合って介護計画の作成に反映させている。	
			(外部評価) 家族面会時や電話で意向を確認し、「少しでも長生きしてほしい」など家族の要望を取り入れながら、担当者を中心に職員で話し合っって介護計画を作成している。代表者が考案した様式は、計画と実施記録などすべてが一目でわかり、効率的なものとなっている。定期的に評価を行い、必要に応じ計画を立て直すなど利用者本位の介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護日誌や介護記録に毎日の様子を記入し、職員間で情報を共有している。カンファレンスの際には、こういったものを客観的に見つめ直し、介護計画の見直しに役立っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) そこまでの取り組みはない。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 毎年、秋祭りには地域の唐獅子保存会が獅子舞を披露してくださるなど、折々に協力者の支援がある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 受診は本人及び家族の意向を最大限尊重しており、かかり つけ医への連絡はこまめに行っている。 (外部評価) ほとんどの利用者が協力医を主治医としている。毎月1回 の往診と24時間医療体制が整っており、利用者は安心して 過ごすことができている。総合病院や専門医への受診は 家族協力のもと行われ、その都度事業所と家族で情報共有 を図り健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 気づいたことは職場内の看護師資格を有する介護職員に伝 えて相談するようにしており、常に適切な対応がとれるよ うに心がけている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時の病院関係者との情報伝達が円滑に進むように、 普段から病院の医師・看護師に対して報告・連絡・相談を こまめに行うことを心がけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 主治医から家族に十分な説明をしていただいた上で、主治 医・家族・事業所が合意文書を作成し、それに基づいた取 り組みを行っている。 (外部評価) 看取り指針を定め、現在まで多数の看取りを行っている。 最期まで口から好きな物を食べさせてあげたいという家族 の要望に応え、家族と協力しながら支援し、穏やかに最期 を迎えた利用者もいる。これからも利用者や家族の意向を 確認しながら、主治医の協力のもと終末期ケアに取り組ん でいきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的な訓練はしていないが、職員研修で対応を学習している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 日々のケアに追われて、災害対策が不十分に終わってしまっているというのが正直なところである。初心に立ち返って、訓練実施に真摯に取り組みたい。 (外部評価) 十分な避難訓練が行われていないのが現状であるが、地域の自主防災組織との協力体制は築かれている。備蓄に関しては一週間分の水と食料品を備えている。代表者は現状を踏まえ危機感を持っており、地域の自主防災組織と連携し避難訓練実施に取り組んでいく方針である。	日頃より地域住民との交流を図り、いざという時の備えができるよう、消防署の協力を得て避難訓練や避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っていくなど、今後の取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の利用者あった話し方、なじみの言葉・敬語を使い分けながら、利用者の尊厳を傷つけない言葉かけや対応を心がけている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの生活のペースに合わせ、落ち着いた生活ができるよう努めている。入浴や排泄の場面では羞恥心の配慮に心がけている。会話や名前の呼び方にも注意を払い、利用者が馴染んで落ち着けるような呼び方を尊重している。代表者と管理者をはじめ、職員は利用者の尊厳を最大限大切に支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が自分の思いや希望を素直に表現できるような雰囲気づくりを第一に考えて取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の意思を尊重し、できる限り自由に、そして自分に合ったペースで過ごしていただけるように配慮している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 男女共に、希望に応じて訪問美容師によるカット・パーマを利用していただき、快適に過ごしていただいている。希望される女性利用者には、職員が化粧やマニキュアの支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 可能な限り、利用者に材料切り・配膳・後片付けを職員と一緒にさせていただくようにしている。	
			(外部評価) 食料提供会社と契約し栄養士の作成した献立となっているが、利用者の好みを取り入れながら臨機応変に対応している。利用者の状態に応じ形態を変え、安全に美味しく食べられるよう配慮している。利用者が落ち着いて食事ができるよう席を一定にし、職員と一緒に食事を摂りながら注意の必要な利用者には声かけをし、見守っている。利用者には豆の皮むきや片付けなどできることを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の食事量・水分摂取量を利用者ごとに確認している。食事形態は利用者、あるいはその日の体調によって異なる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後は口腔ケアを実施している。うがいができない利用者には、ガーゼやスポンジブラシを使用し口腔清拭を実施している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者の排泄リズムに合わせてトイレ誘導を行うように努めており、可能な限りトイレで排泄するようにしている。	
			(外部評価) 各ユニットにトイレが3か所あり、うち1か所は浴室に設置されており、利用者は使用しやすいトイレを選んで使用している。職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけにより誘導し排泄自立を念頭に支援している。日中は布パンツとパットで過ごし、夜間のみ紙パンツに変更することで利用者の安心を保てるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事量・水分量をチェックしながら、食物繊維や乳製品の摂取を心がけている。また、毎朝体操をして身体を動かすようにしており、どうしても便通のないときは医師に相談して薬を服用していただいている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴できるようになっており、利用者一人一人の状況に応じた入浴支援を心がけている。	
			(外部評価) 毎日入浴できるよう支援しており、利用者全員が入浴を楽しめるよう努めている。同性介助など利用者一人ひとりの状況に合わせて、ゆっくり落ち着いて入浴できるようにしている。定期的に肌の乾燥が目立つ利用者には、入浴後ボディクリームを塗布し保湿を保つなどの配慮もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ゆったりと、自由に自分の時間を過ごしていただけるように心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書は利用者別のロッカーに保管し、内容をいつでも確認することができるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の意欲の程度に配慮しながら、支援することを心がけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外へ出ることを好まれない利用者がだんだんと増えてきた…という実態があり、以前に比べると外出支援の頻度は低い。事業所としては、大いに力を入れたいことのひとつであるので、さらに工夫と努力をしていきたい。 (外部評価) 積極的に外出を希望する利用者が少なくなってきたが、天気の良い日は庭先で日向ぼっこしたりする機会を設けている。家族の協力を得てドライブに連れ出してもらうこともある。年間行事計画を立て、花見などの外出は行っているが、継続するまでは至っていないため、今後はさらに工夫と努力を重ね外出支援に努めたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者家族と相談の上で対応している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自由にしていただいている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 各居室・リビング・脱衣室に温度計を取り付け、こまやかな室温調節を心がけている。 居室の入口ドアには、利用者が職員と一緒に作った折り紙の飾りのついたのれんを掛けている。 (外部評価) リビングは広く、吹き抜け部分があり明るい日差しが差し込んでくる。温度確認表をチェックしながら細やかに室温調節することで利用者の健康管理につなげている。臭気がないよう換気はまめにしており、玄関を入るとやわらかい良い匂いが心地よく感じられる。掃除もきれいに行き届き整理整頓もされており、利用者が転倒等をしないよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにソファを置いており昼のスペースもある。一人一人が思い思いに過ごすことができ、また気の合った者同士で語り合うこともできるように配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた物を持ち込んでいただき、安心できる空間をつくるように努めている。 (外部評価) エアコンやベッド、クローゼットが備え付けとなっている。ベッドは簡易と介護用があり、利用者の状態に合わせて使用できるよう配慮されている。転落防止のため和式布団を使用している利用者も多く、タンスやテレビなど使い慣れた物を持ち込んだり、仏壇に遺影などを置き手を合わす利用者もいる。部屋には温度計を置き適切な温度を保ち、また担当職員が居室の片付けを協力するなど、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 「できること」「わかること」の領域がせばまらないように、事業所としてできる工夫や配慮を常に模索している。	